

二十一日は、会津藩が天然てんねんのとりでとたのみにしていた母成峠はなりとうげの防備ぼうびを西軍が突破して、会津領になだれこんだ日です。

五郎の家では、すでに父佐多蔵さたぞうをはじめ、太一郎たいちろう、謙介けんすけ、五三郎ごさぶろうの三人の兄たちが、それぞれ戦場に出向いていました。数日前、五郎の母は、白虎隊士でありながら熱病でねていた四男の四郎をもむりにしたくさせ、

「柴家の男子ですぞ、急いで城中にいる父のところへ行きなさい。決して家の名をけがすことのないように。」

と送り出していました。この四郎は後に東海散士とうかいさんしの名で小説を書き、また代議士や大臣にまでなった人です。

八月二十一日の早朝、若松城下本二ノ丁ほんにのちようの柴家に、面川沢村おもかわさわむらに住むきさおば

